

4月後半の天気予報では、好天が見込まれますので、育苗ハウスの温度管理には注意しましょう。

1 育苗ハウスの高温に注意

晴天で日射しが強いときは、新品のビニールに交換したハウス、古いシルバーポリ使用のハウスで、高温障害(高温ヤケ)を受けることがあります。

【苗が高温(40℃以上)に遭遇した場合】

軽度(短時間)：種子が「湯あたり」状態になり、生育が一時的(4～7日)に停滞するが、通常の苗として使用できる

重度(長時間)：芽や根が死んでしまい4～5日で腐るので、早急にまき直しが必要になる

芽の致死温度 42～45

根の致死温度 43℃で20～30分 49℃で1分間

2 かん水管理のポイント

夜間の水分過多は、徒長苗・根の発育不良となりますので、かん水は床土が乾いたことを確認してから行います。

3 水田内の稲わら搬出

春に稲わらを鋤込むと、稲わらの分解に酸素が使われるので土壌が酸欠になり(ワキの発生)、根が傷んで稲の生育や収量に影響します。また、鋤込んだ稲わらから窒素が出るので、タンパクを高める要因になります。

水田に稲わらがある場合は耕起前に稲わらを搬出してください。

稲わらの搬出方法

畦を切り水田の水を抜き、ほ場を乾燥させる。

ローバールまたはバックレキなどで稲わらを収集後、ほ場から稲わらを搬出する。

搬出した稲わらは、ほ場から離れた場所に運搬し堆肥化を図る。

やむを得ず稲わらの収集、搬出ができない場合は、集まっている稲わらを拡散させる。

稲わら収集・搬出時の注意事項

ほ場が乾燥していない時に稲わらを収集・搬出すると、作業機による土壌の練り返しが生じ、透水性の悪化が懸念されます。

できるだけほ場が乾燥している状態で作業機を使用してください。

ストップ！農作業事故 忙しくても農作業はゆとりをもって